

小松の文明開化

文明開化は、まず電信や郵便という情報制度としてもたらされた。明治五年（一八七二）に小松郵便局が九竜橋



本蓮寺内の行在所

北岸に建てられ、電報は明治十六年から始まった。

一方、各地方都市には、開化の窓口である博物館・物産館が、「公園」な

目に見える文明開化、洋服や洋食などの西洋化を全国に広める契機のひとつが天皇の地方巡幸であろう。明治十一年、明治天皇は北陸東海を視察。十月五日には小松の本蓮寺に到着した。六日には小松を発ち丸岡へ。途中串茶屋町の清水家と月津の興宗寺で休憩している。このように、天皇は行く先々でその土地の名望家の居宅を行在所とし、通信設備や道路などのインフラを整備しながら開化の実態を示したのである。



旧小松郵便局（小松市立博物館提供）北国街道に面した九竜橋たもと、京町交差点に建設された。



通成館前(小松市立博物館提供)

る施設に開設された。小松では、通成館と芦城公園がこれに相当する。通成館は明治二十年五月に能美郡連合町村

会が二〇〇〇余円を出して建設。物産館として階上に参考品を陳列し、産業面での開化を促した。

さらに、本格的な開化は鉄道によってもたらされた。北陸線は、明治三十年九月二十日、福井―小松間が開通し、



道の端には客を待つ人力車が見える(小松市立博物館提供)

小松駅で開通式が行われた。見学者がアーチや球灯で飾り付けられた停車場付近に群集し、大変な賑わいとなった。このち金沢駅開設までの間、小松駅が終着駅となっていたため、小松が物資の流通集積地となり、駅前には旅館や倉庫が建ち並んだ。商店街も出来、地域経済は拡大していった。

(本康宏史)